

えひめ水産イノベーション事業 ～研究成果通信～ No.7

発行:公益財団法人 えひめ産業振興財団 えひめ水産イノベーション創出地域
TEL089-960-1153 FAX089-960-1105 平成28年10月5日(水)発行

この『研究成果通信』は、文部科学省の補助事業である「地域イノベーション戦略支援プログラム」により、平成24年7月からこれまでの間、愛媛大学南予水産研究センターに招へいた研究者が宇和海の水産業の活性化を図るために取り組んだ研究の成果を広くお知らせするためのものです。

今回は、「流通システム等の抜本的改革による新たな水産ビジネスモデル構築に関する研究」において、韓国の水産物消費の変容について現地調査を実施したので、その概要をお知らせします。

流通システム等の抜本的改革による新たな水産ビジネスモデル構築に関する研究

【輸出環境調査:韓国の水産物消費の変容】

愛媛大学南予水産研究センター 助教 鈴木幸子(代表研究者 准教授 竹ノ内徳人)

国内の水産物需要は、人口減少や所得の低迷等により減退傾向にあり、日本の漁業・養殖業は、今後一層厳しい状況に置かれることが予想される。養殖業が盛んな愛媛県でも、養殖漁家の高齢化、後継者不足、魚価の低迷、コストの増大等、多くの問題を抱えている。一方、海外ではヘルシー志向や和食人気を背景に、水産物消費が拡大しており、海外への販路拡大が重要な政策課題として位置づけられている。

韓国の水産物消費・輸出環境の変容

養殖魚輸出に影響を及ぼす外部環境要因を把握

● 政治的要因:

[関税引き下げ]: 年々引き下げられている。

[輸入規制]: 放射性物質、魚病など

[インフラ整備]: 貿易港や物流施設、卸売市場等の整備

● 経済的要因:

[実質可処分所得]: 80年代以降大きく伸びたが、90年代後半から鈍化。

[物価]: 第一次産品の物価がこの15年間で大幅に上昇。

● 社会・文化的要因:

[人口]: 現在の人口は約5千万人。まだ、しばらくは増加傾向で推移するが、2030年ごろから減少すると予測。

日本と同様に少子高齢化が進行。

[食料消費構造]: 一人当たりの食料供給量の拡大が進展。

穀類は減少、肉類、乳製品、油脂類は増加、魚介類、野菜類は微増。韓国では食費の約5割を外食費が占める。

[ライフスタイル]: 都市化の進展、食の簡便化、外食化、洋風化。

[水産物の消費]: 1970年代に増大。2006年以降、1人当たりの年間水産物消費量は日本を上回る。

[消費者の嗜好の変化、食の多様化]: 刺身は外食で食され、活魚が好まれる。ヒラメやクロソイなどの白身の刺身盛り合わせが定番。近年は、マグロやサーモンの刺身も消費されるようになってきた。

[安全・安心に対する意識の変化]: 輸入水産物の残留薬品や放射能汚染に対する不安が高まる。養殖魚の輸出には、産地証明書、放射能検査証明書や健康証明書などが必要。

● 技術的要因:

[養殖生産技術の向上]: 養殖マダイ生産量は少ないが、養殖技術の開発や研究に予算が投入されている。

愛媛県の対韓活魚マダイ輸出

・愛媛県の活魚マダイの輸出は、2008年に5千トンを超えたが、原発事故以降は減少。養殖マダイは高級魚として位置付けられ、日本産の品質は高く評価されている。

韓国向け養殖マダイ輸出の環境

・関税の引下げは養殖マダイ輸出に有利に働くが、経済成長の鈍化、韓国産養殖マダイ生産の安定化や刺身商材の多様化、根強い放射能汚染のイメージ、代替可能魚種が多いなど、日本産養殖マダイの商品性には厳しい条件が並ぶ。

今後の課題

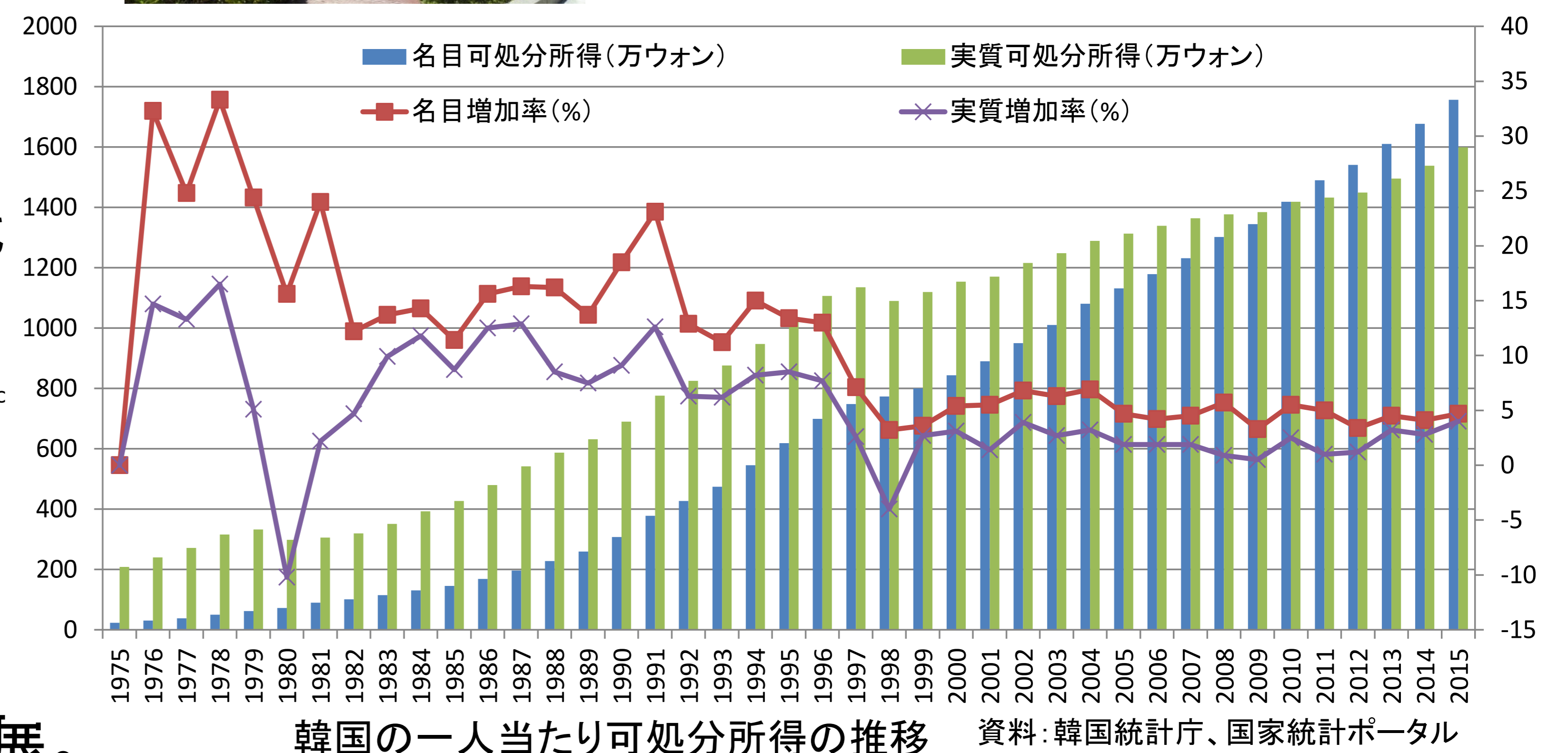
養殖マダイは、国内市場も海外の既存市場も厳しい状況。これまで、国内価格の安定化のための間引き輸出的な側面が強かったが、今後は広域的・長期的な視点を持ち、韓国の消費動向に合わせた輸出戦略の構築が重要である。



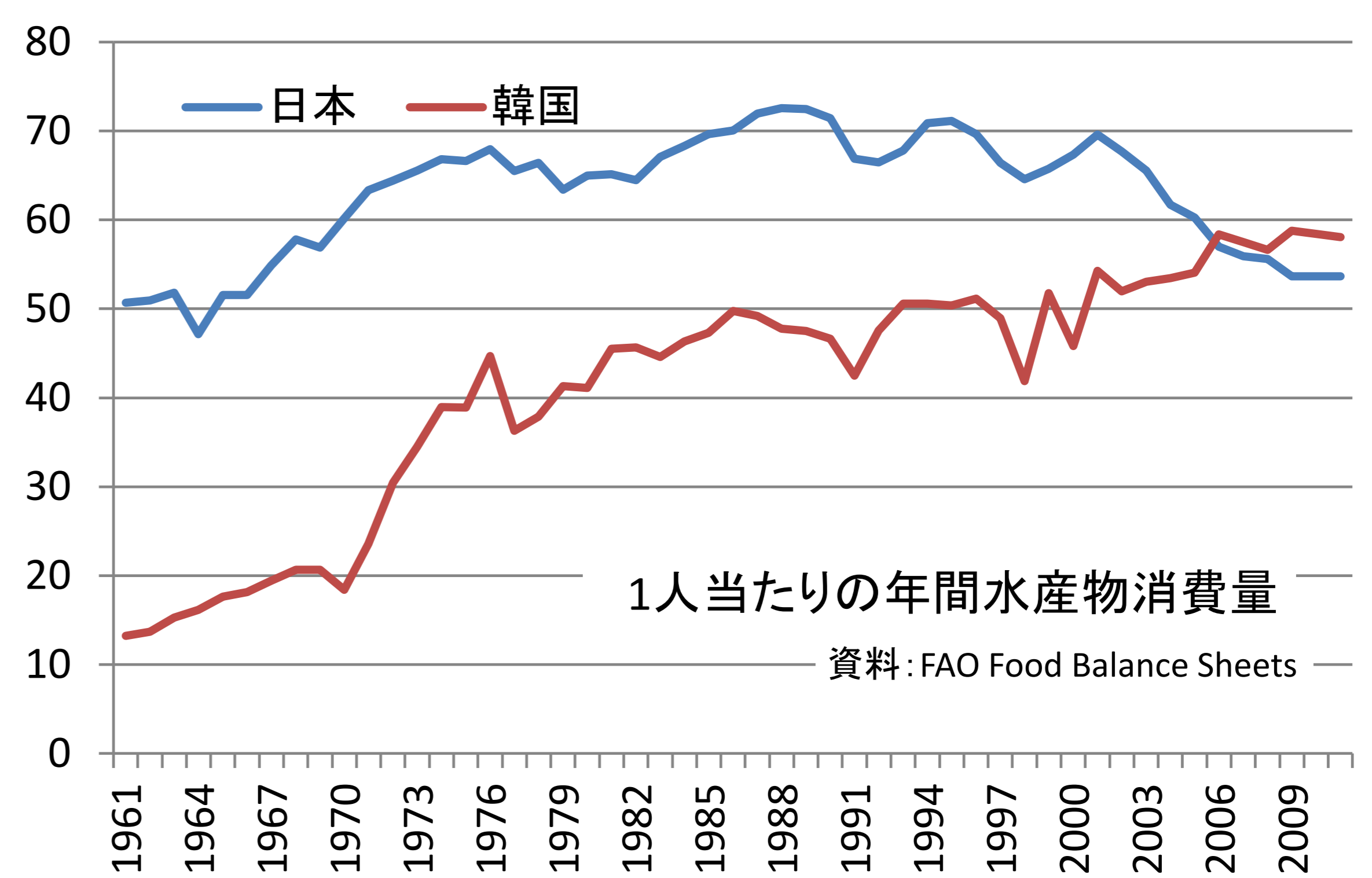
釜山の国際水産物卸売市場



ソウルの新しい水産卸売市場



韓国の一人大当り可処分所得の推移 資料:韓国統計庁、国家統計ポータル



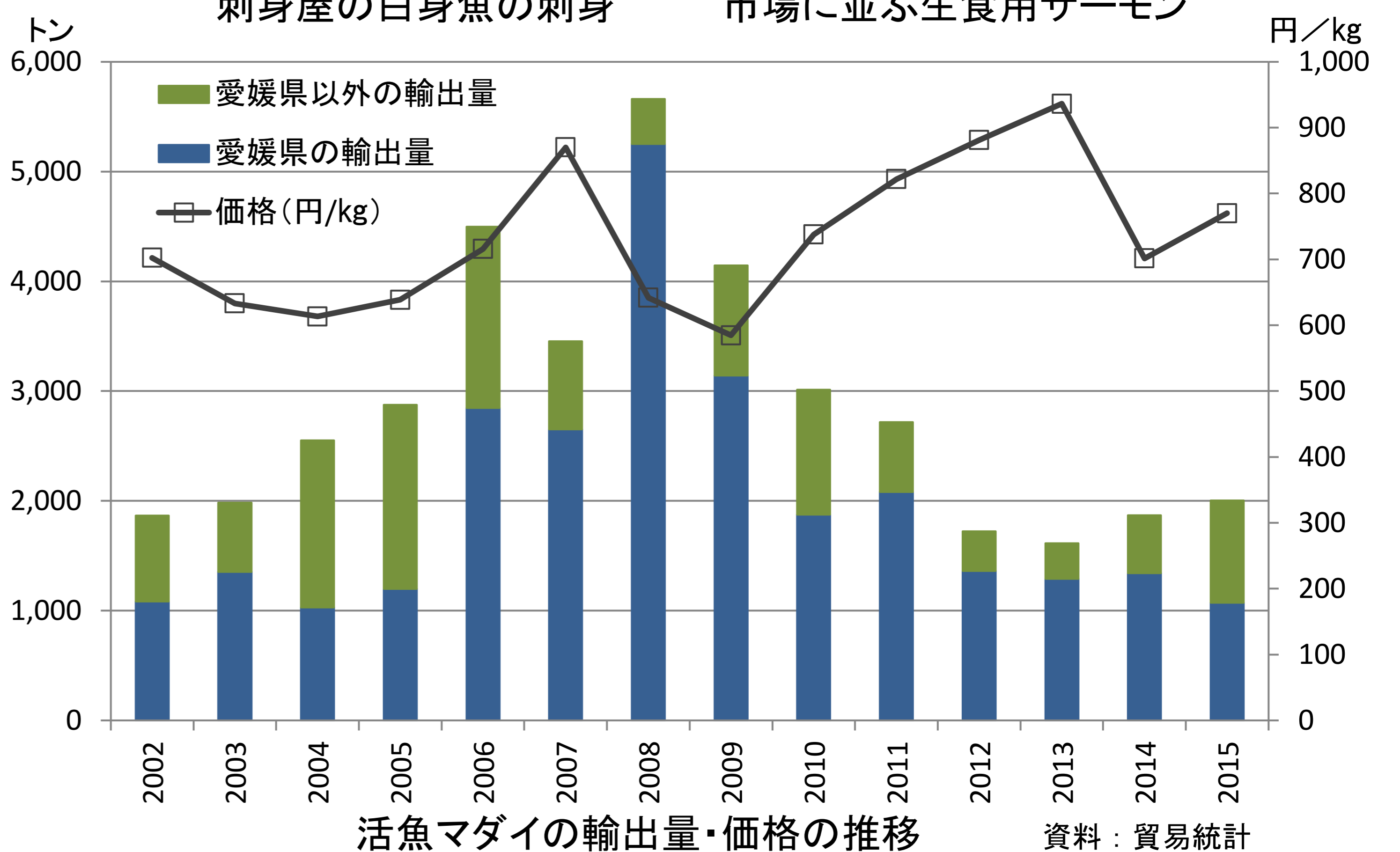
1人当たりの年間水産物消費量 資料:FAO Food Balance Sheets



刺身屋の白身魚の刺身



市場に並ぶ生食用サーモン



活魚マダイの輸出量・価格の推移 資料:貿易統計